

映画「いのちの山河」 全国上映1000カ所めざす

つながる光の輪

—吹雪のなかの雪灯り

吹雪の中、小さな灯りが西和賀の町全体でつながりました。2月5日と6日の両日、町全体にろうそくの灯りが灯りました。としまでも続く光の回廊、地区の住民が数日かけて作った本格的なものから家の前にひとつだけ点されたものまで、住民の思いを吹雪の町全体で見ることが出来ました。

その中には深澤晟雄の名前も、吹雪で作る人見る人も大変だったと思いますが、年々回を重ねることに広がる光の輪を大切に出来たらと感じました。



2～3月は予約開館

2月～3月の資料館は予約によって、その時間だけ開館します。資料館見学を希望される方は下記の深澤晟雄の会事務局にご連絡下さい。

深澤 晟雄 村政時代

太田 祖 電

昭和31年10月1日晟雄氏は助役に就任しました。教育長の後任には私になりました。私は昭和28、29年とブラジルの移住邦人地域18ヶ所を、東本願寺の開教師として巡り、昭和30、31年は新潟県北部550ヶ所(5条教区)の寺院教化活性化の特別駐在として巡回していました。31年9月、突然晟雄氏から、キヨイクチヨウニナシ、スワキンコウ、マサオという電報が届き、同志として呼ばれたことに大に感激して、一切の仕事を辞めて直ちに村に帰りました。
(裏面12～13頁)

晟雄氏の助役時代は、翌年の村長就任までの僅か6ヶ月でしたが、村づくりの基本課題は何であるかをじっくり調査考察しました。

この時、国民健康保険係の高橋清吉から大課題が提起されました。それは、国保直営の沢内病院が新築落成して昭和29年から開院しましたが、初代院長は2カ月で辞任してしまっただ。その後、盛岡の岩手医科大学から医師を送ってもらったが、いずれも短期間

で交代になり、村民の不信を買っている。さらに、年々保険税が上昇して、その滞納者が加入戸数の3分の1にも達しているという状況でした。

さらに係長は、村民のいのちと健康を守るものが村の最大課題であり、そのためには先ず、保険税の滞納の整理、②保健婦の採用、③保健連絡員制度の確立、④啓蒙活動のための講演会や地域座談会の実現を早急に行うこと。「を強く訴えたのです。深澤助役は、終始じつと熱心に聞いていました。

この時から、生命尊重の行政「こそ、村づくりの根幹でなければならぬ」とを深く決意して行ってきたのです。

豪雪 貧困 多病の三重苦

昭和32年4月、深沢晟雄氏は村長に無競争で当選しました。この時、教育長であった私は、村長に村づくりの基本課題は何ですか。「と素直に聞く、村長は次のように語りました。

俺とお前と2人で村づくりの基本をきめるというところは専制的政治である。民主主義というものは、住民が何を考え、何に苦しみ、何を願っているかを十分に聞いて、住民全体の地域課題と生活要求を徹底的に分析して、そこから、不易と流行 芭蕉の万代不易・一時流行)をしつかり見据えて行政を推進して行かねばならない。「不易」とは、村の基本課題をしばって、何十年という歳月をもって解決することである

豪雪に包まれた旧沢内病院

り、「流行」とは、それぞれの年代において、短期に解決すべき課題である。この住民の広聴活動は社会教育の分野であるから、一年間の間に、住民の声を徹底的に聞いてもらいたい。そこから、村政の基本課題を定めようではないか。」

このことは、村づくりの展開の根底は社会教育であることを宣言したことでもあります。まことに、重大な使命を与えられました。

共済新報から抜粋

お客様との出会いから

大雪の日

その日は朝から雪が降り続き屋根から落ちる雪と降り続く雪を何度も片づけていました。

こんな大雪の日にお客様も来ないので、はと思っていましたら、入口の扉が開き2人の方が入ってこられました。

「この大雪の中、資料館に足を運んで下さり有難うございます。どちらからですか」と問いかけましたら「東京から」とのこと。

更に話を伺いましたら東京の武蔵野館で「いのちの山河」を観て寄ってみようと思ったとのこと。

ビデオと展示資料に目を通されて一時間ほどでしょうか。帰る頃には資料館前の階段は雪であふれ形が判別出来ないくらいになっていました。そこをゆっくり滑らないように降りて帰って行かれました。

残された感想ノートには「政治とは何かを考えさせられる資料館です。雪が降っていたのでなかなか大変なところだと感じました」と記しておりました。